



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2024年12月09日 第1197号「週刊五十嵐レポート」

世界に出る

12月2日～7日日経新聞夕刊の「人間発見」は次期アジア開発銀行総裁の神田真人氏。2024年7月まで3年間財務省で財務官を務め、現在は内閣官房参与。約24年ぶりとなる円買い為替介入の指揮をした。25年2月アジア開発銀行総裁に就任予定。

かつて自動車や電機などで高い国際競争力を持ち、巨額の貿易黒字を計上した日本の姿は大きく変貌した。モノの貿易収支は赤字、サービスの貿易も赤字。デジタル部門の競争力が高くないためである。一方、貿易以外のお金の流れを合わせた経常収支は高水準の黒字。海外への投資からの利子・配当が増えているため。そうしたお金は日本に戻ってこない。海外に再投資される。海外の企業などからの日本への投資も低い水準。

国際収支の変化を見れば、日本の経済や企業の力を強めることの重要性が理解できる。成長が期待できる分野へ労働者の移動と企業の新陳代謝を促す取り組みが重要。

日本人は謙虚に古今東西の様々なことを学んで独自の文化を築いた。今は国境の内側にこもり、国内でも縦割りのサイロみたいなものに閉じこもっている。リスクを恐れている。本来のダイナミックな日本人に戻って好奇心を持ち、様々な人を受け容れて、いろいろと学ぶべき。多少のリスクをとっても挑戦するようになれば、日本人はもっと幸せになれる。

今まで訪れた国の数は100近い。3回訪れた南米ガラパゴス諸島の豊かな生態系、南米のイグアス滝で見た自然の圧倒的な偉大さ、諸民族の素晴らしい文化芸術に圧倒された。旅行をすると困ったときに手を差し伸べてくれる人類共同体の温かさを実感する。

若い人には、多少のリスクはあってもどんどん外に出てほしい。貴重な発見があり、きっとプラスになる。

若い人でなくても、世界を見ることは大事。日本は人、モノ、資金も世界と繋がって生きている。日本にいただけでは分からないことが多い。国境の壁、国籍の壁などを取り払い、切磋琢磨して日本を盛り上げる。

ちょっと
短編で台湾旅行

12月2日～7日まで短編で台湾旅行をした。台北は2度目だが、台南・高雄は初めてだった。入国手続きに時間がかかり、台北から台南・高雄へ行く新幹線（事前に予約した切符）に間に合わなかった。簡単な中国語で対応策を聞くと、その後の便の自由席なら使えるとのこと。なんとか高雄（左営）駅についたが、妻が予約したホテルが見当たらない。グーグルマップで見ると、現在地からずいぶん離れている。駅員に中国語で聞くと、この駅ではなく、乗り換えていく必要がある。どこに行けばというと、手で行く方意向を指してくれた。最終駅は「高雄車駅」。違う駅だった。困ったときは、人に頼る。多少、中国語を話せて良かった。

ウーバータクシーを多く利用した。台南で出会った日本人にウーバーは便利ということで、すぐにダウンロード。待っている所にタクシーが来て、何も言わずに目的地まで行ってくれる。お金の授受もない。確かに便利。台湾はレンタルサイクルの利用頻度も高い。

円安の影響もあり、日本とほぼ物価は同じ。安いという感覚はない。ユニクロは日本の2倍から3倍ぐらい高い。生産国は中国、ベトナムなのになぜ日本は安いのか。日本ほどお客はいない。海外に行くと、日本とは違う景色を見る。新しい発見がある。来年は中国大陸を探索してみよう。



一口メモ
知識

兆(きざ)しが報(しら)せる

君子は微(び)を知りて彰(しょう)を知り、柔(じゅう)を知りて剛(ごう)を知る。

「微」は時の機微(きび)、兆し。「彰」は明らかにする。つまり、微細なる機微が物事を明らかにすることを知る、という意味。

ほんの些細な兆しを察知して、それがいかに発展していくか、どのような現象が起きてくるかということ、すべて知ることができる、というのである。

「剛柔(ごうじゅう)を知る」とは、その物事の裏表、ありさまを知り、いかようにも行動できるということ。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時
- 「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5
TEL.03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

